



Title	国民社会の研究 第18巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962-05-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77583
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	1021_0118.pdf



[Instructions for use](#)

18

Standard Note

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

國民社會の研察
第十八卷

昭和三十一年三月五日

FOR
WA
30

ES

国策パルプ専工場特濾紙使用

ESD - NOTE

18

余の口民社会思想を力説する夫	1
社会的地位と役割	5
役割とは何か	8
位階と職分	10
日本の口民社会の平凡(特異)な特徴	11
的である	16
津田定吉の「わけ」の自覚	18
津田定吉の批判	20
日本の経済文化	21
日本文化の南北型西南型の二気流	22
の批判	24
都市は統合機会の集積地と	26
見えない批判	27
都市化の日本的な可成り	28
合同企業や産出企業の大勢力	31
文部省の成立による口民社会	31
の研究協力の内容	31
日本文化の特性	31
日本人の天分	31

余の「口民社層不脱」で力説すよと大

一、口民社層不脱の原理

イ、テリトリー論 (行政区隔制と

口民社層の整頓と統治文化

の永久継続の理

ハ、先覚者子の株券

一、村莊都市の連続と模範説

一、統治文化の連続と空間的
連続

イ、政權交代における統治文化の付

既

四、文化活動の拡大と樹枝状組織の形成

(五) 統治文化と都市の配置

(六) 経済活動と他の活動

樹枝状構造を伴う

ここに日本の統治文化の特性

や日本人意識の形成の背景

一、口 民生活動における勢力の拡大

これは大政党と大企業体のあ

い、大政党と大企業体の合力の場合

及大改革の

四、大企業株主の地理的分布

八、首都の地位と役割

一、口民社会の社会構造

1. 社会の骨格的構造としての社会構造

2. 政治的、高次の工業的機関の配

置に口民社会活動の骨格を認め

るべきである。

一、アメリカの都市化と日本の都

市化の別

一、家族制度の存続

1. 口家構造の社会的理解

2. 家族の下部構造の

八、口宗哲を批判
在口宗の宗の申附様
亦口宗の宗
口宗の宗
ト、承継の限界

(三頁六白)

社会的位階と役割

都市はその都市がけり都市である
なく口民衆の諸都市の中にある
けりその都市の位階があり役割
がある。

その都市内などの集団もその都
市内の社会の中
にある。位階の都市の中
の各人の
位階があり役割がある。

かくの如き社会的位階と役割は
階層的にも位階と役割と
ある。位階と役割があるのは階層
構造内にあるものではない。

同一階層の中にもそのれくの位
視と行動をもつ他人の又は異位
的組織の國家に組織と活動
がある。

階層と行動は階層構造の内

に支えられてある大回達に下

ある。同一階層にあり、人々の同

じなるとん存在を利存在の七位

度と行動は固定的である。

「見替」における果敢の status と role の

組織より見た果敢の分類

① 広域の果敢は次の様

に分類される。

一 民間中心都(首都)

二 地方中心都市(府知事所在地)

三 中小都市 (デパートのある市、ない都)

四 株的都市 (農業者人口 $\frac{5}{10}$ 以下を合す 都)

五 村的 (農業者人口 $\frac{15}{10}$ 以上の果敢)

援團とは何か
トモトモト

援團とは社局的に公認され、その活動が一定の社局的役割を果すものとして期待され、いゝ生業の本據である。援團は生業活動における平易の単位を有するのであるが、その単位は他人の生業であり、より多数者の生業協力体である。これは、平化の現成より昔に生業協力体は、若くは、大衆の協力体となり、都市の近代化は大協力体の援團

の
増
加
を
政
府
が
支
持
し
て
い
る

位階と職分

正統の内にも村にも都市にも

□ 氏名付くも正統活初の累元

を有すもの位階と職分が

と相互に是れを法めて活初し

といふ。それ終極のみ。位階

は職分は上下の同位の中にも

ある横の同位の内にもある。それ

は *status* とは *position* がよい。 #

家の内の男は他人であり、村

の累元は世帯であり都市下の

累元は ~~村~~ 村園である。□ 氏名

の累元は村と都市である。

日本の口民死守の特質は

奴隷的である

日本の統治文化は征服者と被征服者の同化の中に成長して来たもので、口民は統治者の背に任せて、新に栄え、無力で服従する以外には力を村をぬ。

村落において、村人は自治の一片の力も出さず、権威の上で支配され、礼を道に従わす、文が書かず、何れも一の首である、自分達の甲斐、身分を不考する、甲斐上を好して、毛祝も憂わしいものである、それ

は打つ首に寸ひさかじ矢もめとろの
功人階を境にしていふ。とんが統治
組織のことも上と民との関係は
いつも同じである。日本の統治組織
は全くよく出来ていふ。戸籍制度
の整備が常の口民に常の捕縛を
あたふ。戸籍制度と申すは
組織によつて口民に常の捕縛を
かけたまはるゝ生活よりあらた
朝鮮の契には村落自治の爲の契
か日本の諸には村落自治の爲の契
諸河原の村人金員加入の諸は

あつたかをねはれ仰を共々へすよ

人々の地位仰の力の満ちあふ。

如辭の詞契は洵星の治安の

みの契である。村先を結持し

洵星の生活秩序を絶えず守持

すよと仰て洵星を守るのは洵星の

成長の力であるよと云ふ考えしよ上の

統治には服しなよと云ふ目録了

から明すよと云ふ非之と眞実家の

別はあつても村人は平素であつても

み見やが違ふ。両税は階層として

格にあるか。税先の内に備われた人があ

16

に就いてその感しを述べよう。その
その行政に及ぼしたるものと世の形を
いと一國の等々人の子に因らるる。

津田史よりお中。皇守

皇守は口民の内新にあつて民族的持

念の中心点をもたすものとし「皇守の

万世享てあゝ根本的理由はここにあり

ので口民の団結の核心であるからこそ

口民と共に口民と共に永久なるであら

神代史の新しき研究 (一九九頁) (朝日新聞)

志 1963 3.24 p.92

民族的持分の中心点をもたした子の

史実と津田氏ほとんど同じに実記し

たかそこが大回心である。口民の団結

の核心をたしその史実を幕末ま

での史実の中に実証するが出来る

はこの意見は正しい。

永い武門統治時代の皇室は口民の

心にとりな形を生きさせてい^{どんた}て力ををて

いお方をを明らかいすよりかは是れかゆ

事である。

^{當時}口民の生活に

流川の研究は皇室は志願する

事である。これを述べたかたは

である。是れが同じである。正しい

史の用明の表現を却て望むものである。

三八、三九、四〇

津田史を批判

各民族の特殊物が強調され各民族
の文化的存在と中々と文化が將來を
決定するものと^{對照}を^{對照}して、各民の^種
族中に共通な法則物と認めよう
は各物とある文化の交流が漸
次加はるにつれて結果が漸次同じ
秩序の中に向つていふことも述べ
がたつてある。民主的^{主義}合理化
の進行が工業発展が速なにつれて
加はる。つて、あるものは何れの民族にも
共通の見方がある。民主
化といふ語は人道のよきよきが

日本の統治文化

日本の統治文化の形成には次の三要素が
かまとして必要である。

一 戸籍法

二 地区社会制

三 島口による口境の隔絶

四 兵器の独占

日本文化の東北型 西南型の二元論の
批判

契丹語から根深い文化的特徴を體に
同化してしまつてはない。東北の漢字
者に朝鮮の倭字と近づいてい
た人があつたにすぎないのだから。

都市は統合機関の集合体である

力の分割

宋崎の君の統合機関の概念は
統治機関より同一ではない。これは
としを中心の統合機関(これは
政治的機関を当然の意味するが)
の傘下にあり、その下に協力して
いる。この機関は統合機関と
見られる。都市は集まること
機関は皆々中心的機関の協
調してよりほか、とあるとそれ外
に述べられている。銀行、倫理、教育、
娯楽の機関皆然りと見られる。

 この同型は口宗をえ現治の
 考への対する大なる互福の
 一つと有りたふか、其要である。

けれとい、例之は學術研究の
 同は合理的批判的精神を以て
 にもつていふのであるが、右は政治
 的同様に提調的をなすか。
 美の區及に對人していふ藝術
 の提調も亦りである。*

(四、一三)

日本の都市化の日本的とアメリカ的

都市化の次の三過程

一、機関の増加

二、未知人と共同体の増加

三、合理化

は日本にフッとは至らへんが、アメリカでは

すでに未知人との関係は飽和状態

にあり、関係の合理化も極限

に達している。都市化は市域の

拡大を意味するにすぎない。アメリカ

の関係は皆都市的な関係や能

動的関係を意味している。これは

金口民は皆都市的な関係や能

24

アメリカはもろ中村の関係も考えたい
ともなり極限にないで済む。アメリカに達している。都市化は市域の
拡大を意味するにすぎない。アメリカの関係は皆都市的な関係や能
動的関係を意味している。これは金口民は皆都市的な関係や能

都市化は本来農村に於いて考へられ
た現象である。

都市郊外は都市的になつて行くが農村
は都市の拡大現象と異なり、特定の
個人土地は都市が出来るより前
農村の土地は都市が出来より前
農村の土地は都市が出来より前

況も現象である。都市化は農村の
都市化は農村が都市に吸収されて
行く現象である。農村を吸収しては
日本でももちろん純農村はないか
も知れない。

都市化は農村が都市に吸収されて
行く現象である。農村を吸収しては
日本でももちろん純農村はないか
も知れない。

故に都市化は農村を吸収して行く現象である。

これは作らざるは都市の拡大は外に
は先を認め。五三はもう農村の

況も現象である。都市化は農村の
都市化は農村が都市に吸収されて
行く現象である。農村を吸収しては
日本でももちろん純農村はないか
も知れない。

然しまた強つてつくと二つもあるので
 ないか。中々か
 大、我、没、以、外、は、な、か、も、知、れ、ぬ。
 つま、り、棉、園、の、増、大、又、は、我、没、が、都
 市、地、と、あ、る。 六月三日

合同主義、党流主義の大勢

他人程より厚に組織を有物とする。

親法、町村合併、我々の成立し

合同研究の流行、厚社の時局素

統。

学界に既分子分關係。

文部省出版局による
口民社存の研究協力の本拠し

藤木 凡

(第一回打合せ 五二八 会費)

都市化現象の激進地帯をめぐらす

村落と都市の動的認識

東京ロより工業口への移行現象

の一般的理解、日本及び各地の

対応、予備の比較)

～ 首都への直結の強化、各都への路線

高橋 凡

日本における統治近代の系譜

戸籍法例を して追記

新旧政府のかけ、引きつぎの歴史(人

制、方針、その他)

改革の影響をうける階層人

中ロの王道と西洋の政治

口実の民族差別論

合理的地区記号論 兵器の独占

渡巴界

日本の口境内に見えぬ少數民族

(アイヌ、オウロ、朝鮮人、中国人)

白人、毛氈(毛織物、異國産物)

混血人に関する研究

多例型、混血を如何に是るか

海外移住者に関する調査

外口料税局

山下五

テリトリーの存在

日本社会成長変容の存在

生活の興亡

東京山おやし新世帯の存在

日本文化の特色

今日日本は全般的に都市化の急進を遂行して合理的文化の建設に邁進の勢が活勃を帯じている。新定数新数 町村合併し都市巨下鄰郡の線々々々進んでいす。

古くからの日本は古代から中心地を畿口

根孝行の道徳にしほうれいた。この道

徳の為に常に陰謀的陰険の下是の

為に常に表裏が表裏、何事も果敢な

強硬的な行動はさせ陰険下さつた

りさせず人の聲ばかり見つ行動が様

な社会的雰囲気がある。このワヒと

かサヒとカ保るんなる下での進路であ

リ陰で、そのあよ。ギリシヤの文化に於ては
なあげつはたし、の健康美かと不しんも
不し。直観的判斷とか稗的轉りとか
か、^本的とか考えられ、暢暢果の暢暢は
不しくした暢暢な^的同士の世界に處
方と養生の技術、~~由~~として發達した
の^二ありき。

終戦後、はじめ、日本人は手はな
で物を考え、物を考へよ、か、如幸も様
にたつたかの様な雰囲気をもつて來
た。そのうち、^のとさうさう、^のぱりしな^のので
あ、か、戦前の千余年、^にelすれ

はたしな事だであらう。

合税で物を売る物を買ふ者は

二ん方楽かすに思ふといふ日本人には見

えよと身（我楽す）の國外にしほらぬとい

たから日本人は思ふ存活躍する

おかしな強いは下りさほ多れ又新

録し之来よこのまよかすこれかいは

美子に活躍すよあう。

合税の心判断し之知人やは示税

譽なり遠いなり。合税が活躍す

の物を買産者はこれかす日本人

のキによつてしき道が振かぬとい

くであらう。

戦前の日本人を去勢して一九のほ中人者の
の道徳、臣民の同好、父子の同好
の文化である。君臣の君は天皇で
大君で主君の主にはものほ皆然
りである。

然り今も日本はすかす暗れあが
ていゝとはない。日本国民の最上都
に皇室一家あり、最底に水平社
の階層が今も日本国民の意の
の中にある。これはないか。これ
の両極がある。同じ日本人の世界には

全く合理的の活動はあつた。然し戦後その形が幾分弱け、大正も国民の元氣に合理的な活動が盛んになつて来た。

夫婦宗祧制、戸籍合併、新市、巨大都市圏の出現、国民生活の合理化のみに過ぎない。知能が上つた。科学と産業の活動が期付された。

矢張り文明は合理化の線の上へ進んできた。西洋文化が本質の成長をいよいよもつた。東洋の文明は

姑息的

一時的又特殊の便宜があるもので、常
に最良なる存在にして、むしろは全
然のこの下であるとは、是より、女中衆より

日本人の天分

古語には「字群が人の心の自はな

活動を拘束し中世には家後道徳

村郷道徳が明治から強制し人の心の自はな

活動を拘束して日本人のハカ自

由の故く、台祝賀生に後つて活都

しう、移るは余も完全にはなつてい

いか、大分近づいていゝ。日本人は

か、大器大器の下にあまのほ、今年

はじめてのうら、虫んな色への

物、おあ、たが、日本人は、天天分を

、天天分は、天天分は、天天分は、

、天天分は、天天分は、天天分は、

近の世は十八世紀に家統の道徳を清
算した。十九世紀からは支配の傳統
に存して、古今の慣習を排除しよ
うとしてゐる。

日本では家統制を継承する古代的
制度の際には完了するまで緩くもな
らねば、家統の支配は同様に古代的なものか
し、ここ排除作用を遂行してゐる。
たが、その時々の同様にあり、

古代的な不台が残り、同様に全權
の自由な成長は不可視である。

最近日本の世界市場への輸出は定ま
らぬ

精神生活の中心をなすもの、自伝、小説、

の工業生産、自然現象、映画、音楽、

美術、文学、音楽、美術、プロレタリア、

いふのは社会生活である。

社会生活には労働、娯楽や遊戯、

が全般的に法則を法則を抑制し

ていられる。運動のイデオロギーと

いふものの政策が今の日本人の社会

知能の発育を促さして全般的に

ありのまゝの理解をさせ先づいふの

はゆりか。

六月七日